

日本における移民の心理的ウェルビーイング
Psychological Well-being of Immigrants in Japan

陳テイテイ (慶應義塾大学大学院社会学研究科)
Tingting Chen (Department of Sociology, Keio University)
竹ノ下弘久 (慶應義塾大学法学部)
Hirohisa Takenoshita (Faculty of Law, Keio University)

キーワード 心理的ウェルビーイング、同化理論、トランスナショナリズム理論、移民の統合

1 研究背景

出入国在留管理庁の統計データによると、2021年6月末の在日外国人居住者数は282万人であり、日本の人口のおよそ2%を占めている。一方、日本政府は、外国人労働者の受け入れを拡大するために、出入国管理法を新たに改正した。コロナパンデミック後、日本では外国人の人口は急速に増加することが予想される。2017年に出された国連の報告書は、外国生まれの移民は当該国で生まれたネイティブより精神的健康状態が悪い傾向にあることを指摘した。そのため、移民の心理的ウェルビーイングに注目することがますます重要になっている。

2 理論的枠組み「トランスナショナリズム理論」と課題設定

同化理論は移民の心理的ウェルビーイングを扱った従来の研究において重要な位置を占めている。受け入れ社会への統合が不十分だと、メンタルヘルスが悪化する可能性がある (Lou 2005; Beiser 2002)。「直線的な同化理論」はホスト国の滞在期間が移民の統合を促進すると提示した。また、「分節化された同化理論」はホスト社会の言語能力と差別の知覚などが移民の統合に影響を与えることを示した (Portes et al. 2005)。

他方で近年、トランスナショナリズム理論は移民研究において益々重要になっている (Portes et al. 1999; Levitt and Jaworsky 2007)。トランスナショナリズムとは国境を越えて生活しながら、母国とのつながりを維持することである。主に以下の4つの行為はトランスナショナリズムの定義に当てはまる (母国に帰る、母国にいる家族に送金、母国で投資を行う、二重居住を維持すること)。トランスナショナルな活動により、出身国の家族や友人と定期的に会うことで、安定した情緒的サポートが得られ、移民の心理的ウェルビーイングを改善すると予想できる。トランスナショナルな活動には様々な側面があるが、本研究ではデータの制約から、トランスナショナルな活動を、母国への地理的移動の観点から把握する。そこで本研究は、日本における移民の心理的ウェルビーイングに関連する要因を検討し、トランスナショナリズムが移民の心理的抑うつにどのように影響するのかを明らかにする。

3 使用するデータと分析戦略

本研究は、2016年静岡県多文化共生に関する基礎調査の外国人調査のデータを用いる。調査対象は、静岡県に住む16歳以上の外国籍住民のうちの5000人である。調査対象に発送した調査票の回収率は24.5%である。最終的には、使用する変数に欠損値のない1193件を用いた。心理的ウェルビーイングを測定するために、日本版K6に準ずる気分・不安障害尺度を使う (静岡調査の6つの質問は日本版K6であ

る)。トランスナショナルな活動については、初来日後の休暇なども含めた出身国に戻った回数を用いた。分析には回帰分析を用いた。

4 分析結果

まず、出身国への帰還を従属変数とする分析を行った。地理的接近はトランスナショナルな移動を促進する。それは移民一世がもっとも頻繁に関与する傾向を示している。また、日本語能力もトランスナショナルな移動を促進している。日本語能力は日本社会への適応の指標とも言えるが、ホスト社会への統合は必ずしも移民の母国との繋がりを弱めるわけではない。

次に、心理的ウェルビーイングに関連する要因について検討する。正規雇用と比べて、技能実習生の心理状態が良いこともわかった。日本語能力は移民の抑うつを高めていた。他のデータを用いた研究では、滞在年数が長いほど満足度が低いことを明らかにしている。移民の統合がウェルビーイングを低下させるのは、出身社会から移住先社会へという準拠集団の変化から解釈することも可能である。差別の知覚は、移民の抑うつを高めていた。最後に、出身国への帰還が移民の抑うつにどう影響するかを確認した。出身国に帰還し、トランスナショナルな繋がりを保持する人ほど、移民の抑うつが低いことがわかった。

5 結論

本研究では、日本語能力や滞在期間について、直線的な同化理論が想定するような傾向は見られず、日本の移民の心理的統合には適切な理論ではないことが示唆され、分節化された同化理論の観点が移民の心理状態を説明する上で有効である。本研究の分析結果はトランスナショナリズムの直接効果を支持し、トランスナショナルな移動は移民の心理的ウェルビーイングを高めることを明らかにした。移民の同化や統合へのプロセスは、国境を越えた視点によってより適切に捉えられる。

移民の統合問題を扱う時、統合は結果ではなく、プロセスとして考える必要がある。そして、移民の社会的起源と適応経験の文脈にも焦点を当てる必要がある。トランスナショナリズムと統合に関する研究は、定性的な研究が多いが、定量的な視点からも今後検討する必要があるだろう。

参考文献

- Beiser, M., Hou, F., Hyman, I., and Tousignant, M. 2002. Poverty, family process, and the mental health of immigrant children in Canada. *American Journal of Public Health*, 92(2), 220-227.
- Levitt, P., and N. Jaworsky. 2007 "Transnational migration studies: Past developments and future trends." *Annual Review of Sociology*, 33: 129-156.
- Lou, Y., & Beaujot, R. 2005. What happens to the 'healthy immigrant effect': The mental health of immigrants to Canada. PSC Discussion Papers Series, 19(15): 1.
- Portes, A., P. Fernandez-Kelly, and W. Haller. 2005 "Segmented assimilation on the ground: The new second generation in early adulthood." *Ethnic and Racial Studies*, 28 (6): 1000-1040.
- Portes, A., L. E. Guarnizo, and P. Landolt. 1999 "The study of transnationalism: Pitfalls and promise of an emergent research field." *Ethnic and Racial Studies*, 22 (2): 217-237.